

子どものための器楽合奏曲の編曲  
 -無理なく演奏でき豊かな響きが得られる編曲法を探る-

千田 耕太郎\*

Arrangement of Instrumental Ensemble for Children  
 -Search for an Arrangement Method that is Easy to Play and Provides a Rich Sound-

Kotaro Senda

本稿では、保育現場や教育現場での音楽発表会における器楽合奏に着目し、その編曲法について探った。そして、和音や旋律を複数楽器、複数人で分担することによって一人あたりを単音の演奏とすることで、適度な演奏難度でありながら、豊かな響きを実現する方策に至った。その具体例として2曲の器楽合奏編曲を紹介する。

**Key words:** 器楽合奏、編曲

1. はじめに

保育、幼児教育の現場においては、生活発表会や音楽発表会など、園児が保護者や地域の人々を前に音楽の発表をする機会が少なからずある。田井(2019)は、これらの行事は、普段の表現活動を通して、表現のありのままの姿を見せ、その経験から子どもたちが感動を得るのが本来の姿であるが、実際は大きく異なり、聴衆を満足させることが目的となり、訓練的な指導となってしまうのが現実であると述べている。結果に重きを置いて練習に時間を費やすのではなく、仲間と楽器を演奏する過程を楽しみ、その延長線上に発表の場があるというのが本来の姿であろう。しかし、筆者も小学校で音楽専科教員として教鞭を執った経験から、保育者や教員が、“保護者やまわりからの期待に応えたい”という気持ちのあまり、より難しい曲、より華やかな曲を選んでしまうことをあながち否定はできない。

本来あるべき保育の姿と、保護者やまわりからの期待、言いかえるならば、子どもが楽しく演奏できる適度な難度の曲と、演奏効果の高い難しく華やかな曲。そのギャップをわずかばかりでも

埋めることはできないのであろうか。

本稿では、音楽発表会における器楽合奏曲に着目し、子どもが無理なく演奏でき、かつ豊かな響きが得られる合奏曲の編曲方法について探り、その具体例を紹介する。

2. 合奏曲編曲の実践

筆者が勤務していた小学校では、音楽会やその他行事で、リコーダーを中心とした合奏曲を演奏する機会があった。当初は、市販の合奏曲の楽譜を購入し利用していたのだが、児童が興味を示すのは豊かな響きの曲であり、そのような曲のことを児童は“かっこいい曲”と表現していた。一方簡易な編曲のものはすぐに飽きて興味を失ってしまうことが多かった。しかしながら、“かっこいい曲”は演奏難度が高く、児童も筆者も、演奏、指導するのに大変苦勞した。また、そのような曲は多くの場合演奏時間が長く、仕上げるのに多大な練習時間を要した。あらゆる楽器店、楽譜売り場を渡り歩き、豊かな響きで演奏時間が短く、かつ無理なく演奏できる難度の楽譜を探したが、なかなかそのような楽譜にたどり着くことは出来なかった。

前述のようなことを繰り返すうち、自分の手で目的に合うように編曲する必要性を感じ、編曲の

\* 四條畷学園短期大学 保育学科

知識など無い中、手探りで合奏曲の編曲に取りかかった。

当初は、豊かな響きを求めると必然的に演奏が難しくなる。演奏しやすさを求めると児童は取り組みやすくなるのだが、“かっこよく”ないためかすぐに興味を失う。というように、なかなか効果的な編曲はできなかつた。しかし、続けていくうちに、徐々に児童や保護者・聴衆、職員の反応も良くなり、どのようなコンセプトで編曲すればよいのが徐々に掴めるようになってきた。

## 2-1. 勤務校の音楽会事情と編曲の方針

・リコーダーが主役

音楽専科教員は演奏せず（指揮者として参加）、児童約100名で演奏する。リコーダーが70～80名。主旋律を担当する。リコーダー以外の楽器は15～20名。

・演奏時間は短く

勤務していた学校の音楽会は、第1部（児童鑑賞の部）、第2部（保護者鑑賞の部）の2回公演を、土曜日の午前中に行い、学年ごとに発表する。したがって時間の関係から学年の演奏時間は10分程度しか確保できない。そのような理由により、合奏曲の演奏時間は3分以内とする。演奏時間が短いと練習期間も短くて済む。原曲の演奏時間が長い場合は、主たるテーマや旋律を拾ってつなぎ合わせ、短くする。

・選曲

選曲については、リコーダーが主役ということもあり、なるべく調号の少ない曲を選ぶ。ただ、リコーダーの演奏に適した旋律であっても、音域が演奏不可能な場合や、運指が困難な場合は目的に合うように移調する。ただし、原曲のイメージをくずすような移調や転調は避けるようにする。

## 2-2. 演奏難度と響きの豊かさ

次に、演奏難度と響きの豊かさ、この2つの要素について考える。

「演奏難度が低い」…子どもも指導者も理解しやすい…指導しやすい。⇨反面、もの足りなさを感じる恐れがある。

「演奏難度が高い」…子どもも指導者も理解しにくい…指導が難しい。⇨反面、満足感、達成感が得られる。

演奏難度に関しては、子どもに適した難度を設定することが肝要である。

「やせた響き」…音の重なりが少ない…演奏難度が低い…指導が簡単。⇨反面、もの足りなさを感じる恐れがある。

「豊かな響き」…音の重なりが多い…演奏難度が高い…指導が難しい。⇨反面、満足感・達成感が得られるという良い面もある。

響きの豊かさに関しては、子どもや聴衆の満足度を考えると、可能な限り豊かにしたい。

## 2-3. 無理なく演奏でき豊かな響きを得る

「適度な難度」と「豊かな響き」。この2つの要素を両立させる方策については、次の2つが考えられる。

[方策1]：音楽の核となる要素や、華やかで演奏が難しい要素を保育者や教員が担当するピアノやオルガンなどに任せ、子どもが演奏するパートは演奏難度を簡易に編曲する。

この方策のメリット、デメリットについては次のようなことがあげられる。

子どもにとって

- ・教員のピアノに合わせて演奏するので、演奏しやすい。
- ・簡易なので理解しやすく、時間をかけずに練習できる。
- ・反面、やり甲斐が少なく、早くに飽きてしまう恐れがある。

保育者、教員等にとって

- ・子どものパートは簡単なので理解しやすく、指導しやすい。
- ・ピアノパートは難しく、ピアノの苦手な保育者や教員にとっては負担になる。
- ・ピアノを弾きながら指導しなければならず、子どもへの配慮、視線が行き渡りにくい。
- ・聴衆にとっては子どもが主役と感じられない危険性がある。

[方策2]：全ての楽器を子どもが演奏する。ピアノ、オルガン、木琴などは、楽器を複数台用意し、それぞれ複数人で分担することでメロディや和音を分散し、単音で演奏できるように編曲する。

この方策のメリット、デメリットについては次

のようなことがあげられる。

子どもにとって

- ・自分たちのみで全ての演奏を行うので、達成感が高い。
- ・ピアノ、オルガン、木琴など、演奏難度が高い楽器も、単音の演奏なので取り組みやすい。(ピアノ経験などが無くても取り組める。)
- ・複数台、複数人で合わせることで音に厚みが出て豊かな響きを味わうことが出来る。
- ・一つの楽器を複数人数で分散して演奏するので、合わせるのには練習が必要。

保育者、教員等にとって

- ・教員は演奏しないので、指導に専念できる。
- ・各パートは単音の演奏なので、ピアノの苦手な保育者や教員にも指導しやすい。
- ・聴衆にとっては子どもが主役と感じられる。

### 2-3. 編曲の具体例

[方策1]と[方策2]を比較すると、[方策2]の方がメリットは多い。[方策2]について次にその具体例を示す。

[譜例1] L.v.ベートーヴェン作曲交響曲第9番より (筆者編曲)



[譜例1]は、ピアノパートとして編曲したものであるが、右手、左手とも重音で演奏する必要がある。ある程度のピアノ経験がないと演奏できない。

[譜例2] [譜例1]を3人で分担する編曲 (筆者編曲)



[譜例2]は、1台のピアノを3人で演奏し、[譜例1]に近い響きを得るための編曲。どのパートも単旋律で、ピアノの経験がなくても演奏できる。また、少しでも演奏しやすいよう、どのパートもト音記号で表記している。

[譜例3] 2台の鍵盤楽器で演奏し、[譜例

1]と全く同じ響きを得る編曲 (筆者編曲)



[譜例3]は、2台の鍵盤楽器をそれぞれ2人で演奏し、合わせると[譜例1]と全く同じ音を再現できる編曲。それぞれのパートの演奏難度は[譜例2]と同じく低く、ピアノ経験がなくても演奏できる。

このような単旋律のメロディを重ねる方法は、クラシックの名曲を編曲する過程で考案した。市販の合奏曲集と原曲のオーケストラスコアを見比べてみると、合奏曲楽譜の複雑なピアノパートも、原曲ではどれも単純な単旋律の積み重ねであった。そこで、演奏難度の高い市販の合奏曲を参考にするのをやめ、原曲のオーケストラスコアを参考にするようにした。その結果、[譜例2]や譜例3のような編曲方法に辿り着いたのである。

### 3. 幼児の器楽合奏への応用

ここで、前述の編曲法を用いて編曲した幼児のための器楽合奏曲「おどろう楽しいポーレチケ」を紹介する。

構成パート

- ・鍵盤ハーモニカ 1, 2
- ・木琴 1, 2 (2台の木琴をそれぞれ2名で演奏する。低音パートは共通)
- ・ピアノ 1, 2, 3 (3人の連弾)
- ・打楽器 (カスタネット、タンバリン、トライアングル、大太鼓、小太鼓、シンバル)

# おどろう楽しいポーレチケ

ポーランド民謡  
編曲：千田村太郎

A

鍵盤ハーモニカ  
木琴1  
木琴2  
木琴(低音)  
ピアノ  
オカリナ  
トランペット  
小太鼓  
大太鼓  
シンバル

B C

鍵盤ハーモニカ  
木琴  
ピアノ  
オカリナ  
トランペット  
スネア  
大太鼓  
シンバル

# おどろう楽しいポーレチケ

ポーランド民謡  
編曲：千田村太郎

A

鍵盤ハーモニカ

B C

鍵盤ハーモニカ

おどろう楽しいポーレチケ

ポーランド民謡  
編曲：平田耕太郎

Musical score for woodwinds and woodwinds. The score is in 3/4 time and features five systems of staves. The instruments are: 木琴1 (Woodblock 1), 木琴2 (Woodblock 2), 木琴(低音) (Woodblock Bass), 木琴 (Woodblock), and 木琴 (Woodblock). The score includes dynamic markings such as *mf* and *f*, and section markers A, B, C, D, and E. It concludes with a *Fine* marking and a *D.C.* instruction.

おどろう楽しいポーレチケ

ポーランド民謡  
編曲：平田耕太郎

Musical score for brass and strings. The score is in 3/4 time and features five systems of staves. The instruments are: ホルン(カハ) トライアケル (Horn (C) Trumpet), 小太鼓 大太鼓 (Shamisen), シンバル (Tambourine), ホルン(カハ) トライアケル (Horn (C) Trumpet), 小太鼓 大太鼓 (Shamisen), シンバル (Tambourine), ホルン(カハ) トライアケル (Horn (C) Trumpet), 小太鼓 大太鼓 (Shamisen), and シンバル (Tambourine). The score includes dynamic markings such as *mf* and *f*, and section markers A, B, C, D, and E. It concludes with a *Fine* marking and a *D.C.* instruction.

おどろう楽しいポーレチケ

ポーランド民謡  
編曲：平田耕太郎

Musical score for piano. The score is in 3/4 time and features five systems of staves. The instrument is: ピアノ (Piano). The score includes dynamic markings such as *mf* and *f*, and section markers A, B, C, D, and E. It concludes with a *Fine* marking and a *D.C.* instruction.

#### 4. 小学校高学年の取り組み

次に、かつて小学6年生が演奏した、G.F.ヘンデル作曲「メサイア」より「ハレルヤ」を紹介する。筆者が勤務していた小学校は、私立の総合学園の小学校で、併設する音楽教室でピアノやソルフェージュを習う児童も多くいたため、楽器パートの演奏難度は高めに設定してある。

パート：

ソプラノリコーダー1

ソプラノリコーダー2

ソプラノリコーダー3

オルガン、キーボード1

オルガン、キーボード2

オルガン、キーボード3

マリンバ（木琴）1

マリンバ（木琴）2

マリンバ（木琴）3

ピアノ1

ピアノ2

ピアノ3

ティンパニ

メサイアより「ハレルヤ」 G.F.ヘンデル

Recorder  
Organ (オルガン)  
Marimba (木琴)  
Piano  
Timpani

S. Rec.  
Or. Str.  
Mar.  
P.f.  
Timp.

**C**

S. Rec.  
Or. Str.  
Mar.  
P.f.  
Timp.

**D**

S. Rec.  
Or. Str.  
Mar.  
P.f.  
Timp.

Adagio

**F**

S. Rec.  
Or. Str.  
Mar.  
P.f.  
Timp.

**G**

S. Rec.  
Or. Str.  
Mar.  
P.f.  
Timp.

Adagio

メサイヤより「ハレルヤ」

♩ = 160

ソプラノ (Soprano)

Str.

Adagio

Score for Soprano (S. Rec.) of "Hallelujah" from Messiah. The score is written in G major and 4/4 time. It features a melodic line for the soprano and a rhythmic accompaniment for the strings. The piece is marked "Adagio". The score is divided into sections labeled A, B, C, D, E, and F. Section A is the beginning, B is the first phrase, C is the second phrase, D is the third phrase, E is the fourth phrase, and F is the final phrase. The tempo is marked "♩ = 160".

メサイヤより「ハレルヤ」

♩ = 160

オーケストラ (Orchestra)

Str.

Adagio

Score for Orchestral Strings (Or. Str.) of "Hallelujah" from Messiah. The score is written in G major and 4/4 time. It features a rhythmic accompaniment for the strings. The piece is marked "Adagio". The score is divided into sections labeled A, B, C, D, E, and F. Section A is the beginning, B is the first phrase, C is the second phrase, D is the third phrase, E is the fourth phrase, and F is the final phrase. The tempo is marked "♩ = 160".



メサイヤより「ハレルヤ」

ピアノ

P. f.

P. f.

P. f.

P. f.

P. f.

P. f.

P. f.

Adagio

メサイヤより「ハレルヤ」

ホルン

ホルン

S. Rec.

Temp.

S. Rec.

Temp.

S. Rec.

Temp.

S. Rec.

Temp.

S. Rec.

Temp.

Adagio

Adagio

## まとめ

筆者が提唱するこの編曲法は、筆者のオリジナルというわけではなく、よく似た手法で編曲されている楽譜を目にすることもある。必要に迫られ辿り着いたのが偶然にもこのような手法であったということだ。保育、幼児教育現場に勤める本学の卒業生が学校に帰ってくる機会があり、話をしてみると、「生活発表会や音楽会で合奏をすることになったが、子どもたちの実状に合った楽譜がなかなか見つからない。」とか、「子どもが大好きなあの歌を合奏に編曲しなければならないが、どうすればよいかわからない。」という話をよく聞く。この研究が器楽合奏の指導や編曲で困っている保育者、幼児教育者の一助になれば幸いである。

## 参考文献

田井敦子（2019）. 幼児の歌唱指導における実践研究 幼年  
児童教育研究 第31号

ベートーヴェン 交響曲第9番 ニ短調 作品125〔合唱付〕  
Zen-On Score（2015）. 全音楽譜出版社 ISBN-13: 978-411  
8970097

安藤真裕子、泉まりこ：編曲 2-5歳児のやさしい・楽しい  
器楽合奏集（2011）. ナツメ社 ISBN-13: 978-4816351303

ヘンデル メサイアKleine Partitur（2015）. 日本楽譜出版  
社 ISBN-13: 978-486060142

—2019.9.24.受稿、2019.9.26受理—